

公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団

事業報告書

平成 25 年度

平成 25 年度事業報告書
(自：平成 25 年 4 月 1 日)
(至：平成 26 年 3 月 31 日)

I. 事業の状況

平成 25 年度において実施された各事業を定款第 3 条に定める事業内容の項目別により、次のように報告を行うものである。

〈事業内容〉

- (1) 伝統木版画の制作技術等に関する調査研究等の奨励

① 研究等奨励交付事業

本事業のうち、絵画部門(木版画の版下絵等の作品公募)に焦点をあてた公募(「アダチ UKIYO E 大賞」)の第 5 回目を既存の奨励賞募集と共に実施した。

アダチ UKIYO E 大賞に関しては、作品の公募期間を平成 25 年 9 月 1 日から平成 26 年 1 月 10 日までの約 5 ヶ月間とした。公募の告知は、公募専門の雑誌やホームページ及び本財団ホームページで内容紹介を行うと共に、全国の美術館や主な美術系学校においてポスター・チラシの設置を行った。その結果、公募による 58 件の応募があった。そして、平成 26 年 3 月 7 日に開催された審査委員会にて、大賞 1 件(奨励金総額 20 万円)・副賞 1 件(奨励金総額 10 万円)・佳作 2 件(奨励金総額 6 万円)を選考決定した。奨励金交付式は平成 26 年 3 月 29 日に開催され、当財団理事長より奨励対象者に交付認定書ならびに奨励金が授与された。第 5 回受賞作品の 2 作品は、次年度に木版画として制作され、現代の UKIYO E として誕生することとなる。

既存の奨励賞については、伝統木版画の研究者ならびに関係者各位からも奨励テーマの推薦を受けると共に、広範囲に認知度の高揚をはかった。しかし、公募期間中に奨励テーマの応募や推薦は皆無であったため、本年度の奨励対象当者はなしとなった。

◆ 平成 25 年度 UKIYO E 大賞審査委員会(3 名)

三井田盛一郎 東京芸術大学美術学部絵画科准教授

安達以乍牟 アダチ伝統木版画技術保存財団 理事長

関 和宏 アートファクトリー株式会社 代表取締役



奨励金交付式の様子



第5回アダチ UKIYO E 大賞受賞作品

《大賞》 賞金 20 万円 + 木版画として制作

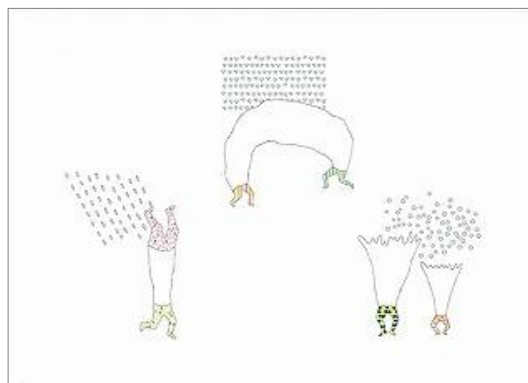
- ・奨励対象者 栗原悠衣
- ・奨励金額 20 万円

《副賞》 賞金 10 万円 + 木版画として制作

- ・奨励対象者 三好 愛
- ・奨励金額 10 万円



大賞 応募作品 「礎」



副賞 応募作品 「話し合うこと」

《佳作》 賞金 3 万円

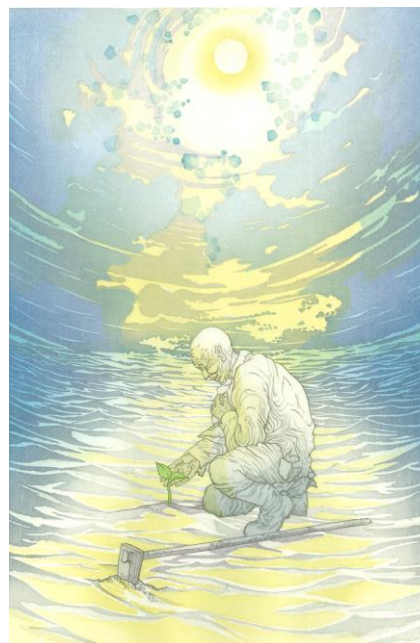
- ・奨励対象者 田中小百合 / 添野寛之

昨年度の受賞作品は、各受賞者と打合わせの上、当財団研修期間を終えた若手彫師、摺師により木版画として制作され、現代の UKIYO E として完成した。



完成作品 (大賞)

大坂秩加「これからがおもしろいんだから」



完成作品 (副賞)

法心のぶえ「芽生え」

〈事業内容〉

(2) 伝統木版画の制作技術者の育成事業

②後継者育成事業

当該事業のうち、伝統木版画の制作技術等の保存および育成に取り組んでいる、現行唯一の任意団体「浮世絵木版画彫摺技術保存協会」に対する育成金交付については、育成対象者が無かったため本年度も実施を見送った。

一方、伝統木版画に強い興味と適正能力をもつ学生等を対象として、総合的に高度な専門技術を習得させることを意図した「高度技術者研修」事業については、平成20年度より、半年間のカリキュラムに改訂し、できるだけ多くの応募者に研修の機会を広げることとした。

本年度は、研修生の該当者が不在のため、研修事業の実施は見送られた。

また、第17期高度技術研修生を採用するにあたっては、平成25年9月3日から平成25年12月25日まで募集を行った。募集の告知は、本財団ホームページでの紹介、全国の美術系大学および専門学校や問合わせのあった個人に対して応募要項を送付するなどして行った。その結果3名の応募者があり、書類選考を行った結果、第17期高度技術研修生(前期)1名の採用をすることとした。

◆第16期高度技術研修生(後期)

該当者なし

◆第17期高度技術研修生(前期)

山田 咲(24歳 女性)

◆技術研修所

東京都新宿区下落合3-13-17

〈事業内容〉

(3) 伝統木版画の制作技術者に関する研修会の開催

③技術実演・研修事業

1) 技術実演会

主に大学・専門学校・高校などの教育機関、美術館および博物館などの文化施設を対象として、伝統木版画の制作技術等に関する啓蒙普及をはかるために、これまで本財団の理事ならびに評議員の中より伝統木版画の制作技術等に精通する数名を講師として、要請のあった施設に派遣し、「技術実演会」を行っている。近年、国内外の美術館や博物館から浮世絵の展覧会を開催するにあたり、作品だけではなく浮世絵の制作工程などもあわせて紹介したいという要請が増えており、技術実演会の実施件数も増加した。また本年度は、韓国の原州にある古版画博物館で開催された日中韓の古版画の研究者及び技術者が集まったシンポジウムに招聘され、摺の実演を行う機会を得た。

そして、本財団常設展示室においては、平成9年10月から年数回第2土曜日に「浮世絵版画実演会」を実施している。この実演会の告知は、「財団レポート」や本財団常設展示室・ホームページを通して広く一般に向けて行っており、毎回定員を上回る方々に参加いただき、好評を得ている。

◆伝統木版画実演会の実施

- ・フランス語婦人会（平成25年5月）
- ・山梨県立博物館（平成25年6月）
- ・三菱地所 Marunouchi Cafe（平成25年8月）
- ・町田市版画美術館友の会（平成25年11月）
- ・墨田区役所 ソラマチ（平成25年12月）
- ・NPO 法人 和塾（平成26年1月）
- ・名古屋ポストン美術館「北斎展」（平成26年2月）
- ・千葉市美術館「江戸の面影」（平成26年2月）

◆体験型実演

- ・静岡市東海道広重美術館（平成25年5月、10月、平成26年2月）
- ・神奈川県立歴史博物館 子供向け（平成25年7月）
- ・北斎館（平成25年8月）
- ・太田記念美術館 子供体験付（平成25年8月）
- ・読売新聞社主催「大浮世絵展」親子体験付（平成26年1月）



◆日本文化紹介のための海外交流企画

<韓国・原州 古版画博物館での浮世絵木版摺り実演>

- ・実施日程 平成25年10月10日～平成25年10月14日
- ・実施場所 古版画博物館（対象:一般・学生・研究者）
海印寺大蔵経フェスティバル会場（対象:一般）
- ・講師 摺師：京増与志夫（アダチ版画研究所所属）
解説：中山周（当財団理事）
- ・実施内容 摺師による浮世絵版画の摺の実演と伝統木版画に関する道具・制作等の説明・質疑応答。



◆本財団常設展示室における伝統木版画摺り実演会

- 実施回数 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月まで計 6 回
 内 容 摺師による浮世絵版画の摺り実演と伝統木版画に関する説明・質疑応答。
 参加者 定員 35 名
 講師 解説：安達 以乍牟（当財団理事長）
 摺師：仲田 昇（当財団評議員）



摺り実演風景

2) 研修事業

木版画に強い関心を抱く一般の愛好家を対象として、初級技術の習得を意図した「職人に学ぶ木版画教室」を計 4 回、2 クラス（各クラス 18 名）で開催した。参加者は講師の指導を受けながら、自作の絵をもとにした年賀状を木版画にて制作した。毎年恒例となっている本教室は、大変人気も高く参加者の方々から好評を得ている。来年度以降も本教室の開催を広く一般への伝統木版画の啓蒙普及の更なる機会と捉え、参加希望者の要望に対応するよう努めるものとする。

◆「職人に学ぶ木版画教室」の骨子

- ・研修テーマ 伝統木版画の基礎的技術の実践（年賀状制作）
- ・日 程 平成 25 年 11 月 5 日～11 月 30 日にかけて計 4 回開催
- ・場 所 本財団常設展示室
- ・参加人数 計 36 名（うち本財団賛助会員 12 名）
- ・研修講師 彫師：新實護允（当財団評議員）岸千倉（アダチ版画研究所所属）
 摺師：京増与志夫、山本駿（アダチ版画研究所所属）

【「職人に学ぶ木版画教室」の様相】



彫り実演風景



摺り実演風景



参加者作業風景



〈事業内容〉

(4) 伝統木版画の制作技術等に関する資料の収集及び公開

④技術展示紹介事業

現在の常設展示室が木版画の総合施設として一般公開され、本年度で9年目を迎えた。開設以来、本財団が保存管理する複製版木（総数約1,200点）と多数の文献資料について、その分析整理を進めるとともに、新たに伝統木版画の制作技術等に関する資料（道具・材料・制作工程等）などの収集も行ってきた。その結果、より充実した形で常設展示ができるようになり、伝統木版画に興味を持つ多くの個人や団体がこれまで以上に常設展示室を訪れるようになっている。また個人や団体からの問合せ件数も増加し、広く一般への公開と啓蒙普及がより促進されることとなった。また、国内外の美術館で開催される浮世絵展にあわせて制作技術を紹介するために展示資料の貸出しの機会がもたれた。

そして、常設展示室では、平成25年6月に富士山が世界文化遺産に登録されたのを記念して、企画展「体感！浮世絵の富士」を常設展示室で開催した。北斎・広重が描いた複製版浮世絵を通して、世界文化遺産となった富士山の魅力をご紹介すると同時に、より身近に浮世絵の富士を体感していただくために体験型の実演会を会期中3回実施した。また、講演会では江戸の人々にとっての富士を当時の様々な出版物から読み解くことで、浮世絵の富士への理解を深めていただく機会を設けた。

また、②技術実演・研修事業での事業成果を発表する機会の一環として「職人に学ぶ木版画教室」作品展示会を例年通り実施した。

<常設展示室>

東京都新宿区下落合 3-13-17

◆企画展「体感！浮世絵の富士」

開催期間 平成 25 年 6 月 21 日(金)～7 月 28 日(日)

◇講演会「江戸の富士」7 月 6 日 13:00～ 参加者 48 名

講師：大久保純一氏（国立歴史民俗博物館 副館長）

◇摺実演会(体験付)

6 月 29 日参加者 30 名、7 月 6 日参加者 45 名、7 月 13 日 参加者 35 名

講師：仲田昇（当財団評議員）、京増与志夫（アダチ版画研究所所属）



参加者の摺体験風景

◆「職人に学ぶ木版画教室」作品展示会

平成 25 年 11 月に開催された初級技術研修会「職人に学ぶ木版画教室」の参加者 32 名の制作作品の展示を平成 26 年 1 月 7 日から平成 26 年 1 月 19 日まで本財団常設展示室にて行い、参加者の多くが見学を訪れた。また本展示会は、常設展示室を訪れた一般の見学者にも興味を持って観覧された。



作品展示風景

◆ 展示品および資料の貸出し

- ・長崎歴史文化博物館
歌川国芳展（平成 25 年 6 月）
浮世絵版画摺り順序、彫摺道具一式
- ・名古屋ボストン美術館
ボストン美術館浮世絵名品展「北斎」
（平成 25 年 12 月～）
制作工程、浮世絵版画摺り順序、版木
- ・大浮世絵展 図録（平成 25 年 11 月）
制作工程画像
- ・横浜美術館「魅惑のニッポン木版画展」
（平成 26 年 2 月） 彫摺道具一式



他

〈事業内容〉

(5) 伝統木版画の制作技術等に関する情報の提供及び刊行物の発行

⑤ 情報提供事業

当該事業は、業界団体・研究機関・一般団体等が主催する展覧会等からの常設展示品の貸出し依頼、また一般からの制作技術等に関する問い合わせおよび相談等の要請に応え、情報センター的機能を果たすものである。

本年度は、当財団が企画開催した常設展示場での展覧会を中心にテレビ・新聞の取材を受けるとともに、画像の貸出をはじめ、浮世絵愛好家をはじめ一般学生などからも、伝統木版画に関する多くの問い合わせを受けた。

平成 20 年度に改訂した DVD「匠達の技」（二カ国語版）は、特に国内外で開催される浮世絵展にあわせた放映依頼が多くあり、浮世絵制作技術に対する関心の高まりを示すものといえる。また、和英併記にて制作した財団紹介小誌を国内外の美術館へ配布することにより、当財団の活動への理解が促進された。

また、本財団が展開する事業の成果や活動状況を賛助会員の他、広く一般にも伝えるために「財団レポート木版」が、平成 25 年 7 月に発行された。このレポートは、年度内に行われた事業報告を行うことを目的として作成され、収支計算書と併せて広く一般に閲覧された。また完成したレポートは、財団常設展示室や実演出張などの機会を捉えて、一般にも無償配布を行った。

◆ 取材協力

浮世絵版画の制作についての取材

- ・ JCB 会員誌「The Gold」（平成 25 年 6 月）
- ・ 月刊キュリオマガジン（平成 25 年 9 月）
- ・ 雑誌 CREA（平成 25 年 3 月）

体感！「体感！浮世絵の富士」についての取材

- ・ 日本経済新聞 首都圏版（平成 25 年 5 月）
- ・ NHK ニュースウォッチ 9、首都圏放送（平成 25 年 6 月）

- ・NHK ワールド(平成 25 年 6 月)
- ・東京新聞「霊峰の美 伝える浮世絵」 (平成 25 年 7 月)

美術番組取材協力

- ・BS-TBS「巨匠たちの輝き」浮世絵大首絵 (平成 26 年 1 月)
- ・TV 東京「美の巨人たち」雪中相合傘 (平成 26 年 2 月)

◆ DVD「匠達の技」の放映

- ・国際交流基金マニラ日本文化センター(平成 25 年 6 月)
- ・三菱一号館美術館「浮世絵 Floating World」展 (平成 25 年 6 月)
- ・山口県立萩美術館・浦上記念館 (平成 25 年 8 月)
- ・West Vancouver Museum (平成 26 年 1 月) 他

◆ 画像の貸出

- ・株式会社堀内カラー (平成 25 年 8 月)
- ・株式会社インプレスジャパン (平成 25 年 8 月)
- ・株式会社イーストエンタテインメント (平成 26 年 1 月)
- ・株式会社 PHP 研究所 (平成 26 年 1 月)
- ・日本入試センター (平成 26 年 3 月)
- ・一般財団法人江戸文化歴史検定協会 (平成 26 年 3 月) 他

◆本財団ホームページ

平成 8 年に開設した本財団のインターネットにおけるホームページでは、事業内容やその成果、伝統木版画に関する情報提供等を行ってきた。TV・雑誌などメディアで取り上げられる機会にあわせ、内容を更新することでアクセス増加を図った。この結果、ホームページを閲覧した一般からの問合せ件数も増加した。特に、情報センターや技術実演会への問い合わせの多くは、ホームページからなされ、事業活動の活性化にとって、大きな役割を果たしている。また、賛助会員への新規入会もホームページを通じてなされるようになってきている。

今後もこのホームページを情報公開のための重要な一手段として捉え、定款・事業計画書・収支予算書等を積極的に公開する等して内容を充実させるよう努める。

- ・ホームページ URL <http://www.adachi-hanga.com/foundation/>

〈事業内容〉

(6)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

⑥木版画制作監修事業

当該事業は、伝統木版画の後継者を育成するための様々な活動を支えることを目的とし、木版画制作を行うものである。本年度は、中島千波氏と平松礼二氏にそれぞれ木版画のための作画を依頼し、オリジナル木版画の制作を第一級の技術者によって実施した。また、本財団賛助会員向けの進呈作品として、本年開催のブラジルワールドカップのオフィシャルポスターを手掛けている若手アーティスト川島秀明氏に、木版画のためのオリ

ジナル作品をご提供いただき制作が行われた。

◆中島千波「富士爽春」（平成 26 年 3 月・制作）

富士山の世界文化遺産の登録を記念して作画を依頼し、浮世絵同様版下絵を描いていただきオリジナルの木版画を制作した。

- ・画面寸法：天地 333 mm×左右 455 mm
- ・制作担当：彫／新實護允(当財団評議員)
岸千倉(アダチ版画研究所所属)
摺／久保田憲一(当財団評議員)
京増与志夫(アダチ版画研究所所属)



◆平松礼二「ジヴェルニー春・秋」（平成 25 年 7 月・制作）

平成 25 年 7 月ジヴェルニー印象派美術館にて開催された「平松礼二～睡蓮の池・モネへのオマージュ」展の開催にあわせて、北斎・広重の浮世絵と同様版下絵を描いていただきオリジナルの木版画を制作した。

- ・画面寸法：天地 256 mm×左右 382 mm
- ・制作担当：彫／新實護允(当財団評議員)
岸千倉(アダチ版画研究所所属)
摺／金井千春(アダチ版画研究所所属)
山本駿(アダチ版画研究所所属)



◆川島秀明「風」（平成 25 年 12 月・制作）

- ・画面寸法：天地 34.0 mm×左右 22.0 mm
- ・制作担当：彫／岸千倉(アダチ版画研究所所属)
摺／京増与志夫(アダチ版画研究所所属)

